

投資で負けない思考

狂騒の市場で平安を保つ「Taoism」の教え

投資とは人間を整える修行である



誰もが「勝つ方法」を探している。

どの銘柄を買うべきか？

どの手法が一番儲かるのか？

いつが買い時か？

成功への道は無数にあり、
正解は誰にも分からない。
これが最初の錯覚である。



賢者の問いは「どうすれば負けないか」。

「Invert, always invert. (常に逆から考えよ)」
— チャーリー・マンガー

投資の本質は「増やすこと」ではない。
「失わないこと」である。

なぜ「失わないこと」が最重要なのか。



[資金の喪失]



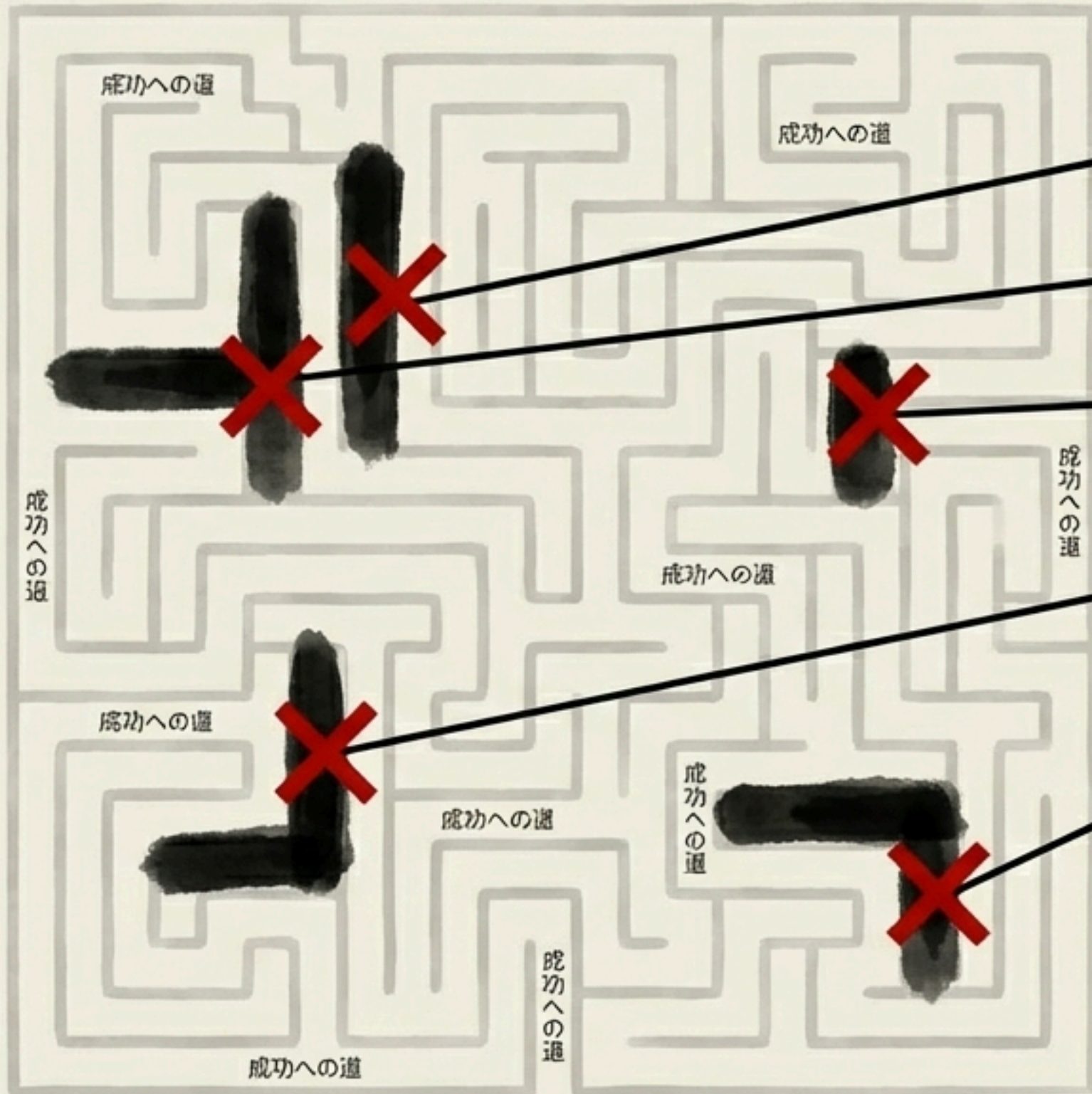
[時間の喪失]



[複利の崩壊]

どれほど優れた手法でも、資金を失えば時間はリセットされる。
時間こそが複利の唯一の土台である。

破滅の構造を理解し、行き止まりを塞ぐ。



1. 過度なレバレッジ
2. 理解していない投資
3. 群衆への追従
4. 短期的欲望
5. 慢心

失敗の原因は驚くほど共通している。
これらを一つずつ消していけば、
自然と安全な道からな道が残る。



理屈とは、未来を当てることではない。

理屈とは「間違いを減らすこと」である。
派手さはない。だが、本質はいつも静かな場所にある。

- [] 無理をしない
- [] 理解できるものだけを買う
- [] 欲望に流されない

投資の実践は、驚くほど地味である。

0 ~ \$100k (約1500万円) : 労働と節約の期間

収入を増やし、支出を抑え、入金する。投資家ではなく、労働者であり節約家である。最も苦しく、多くの人が諦める時期。

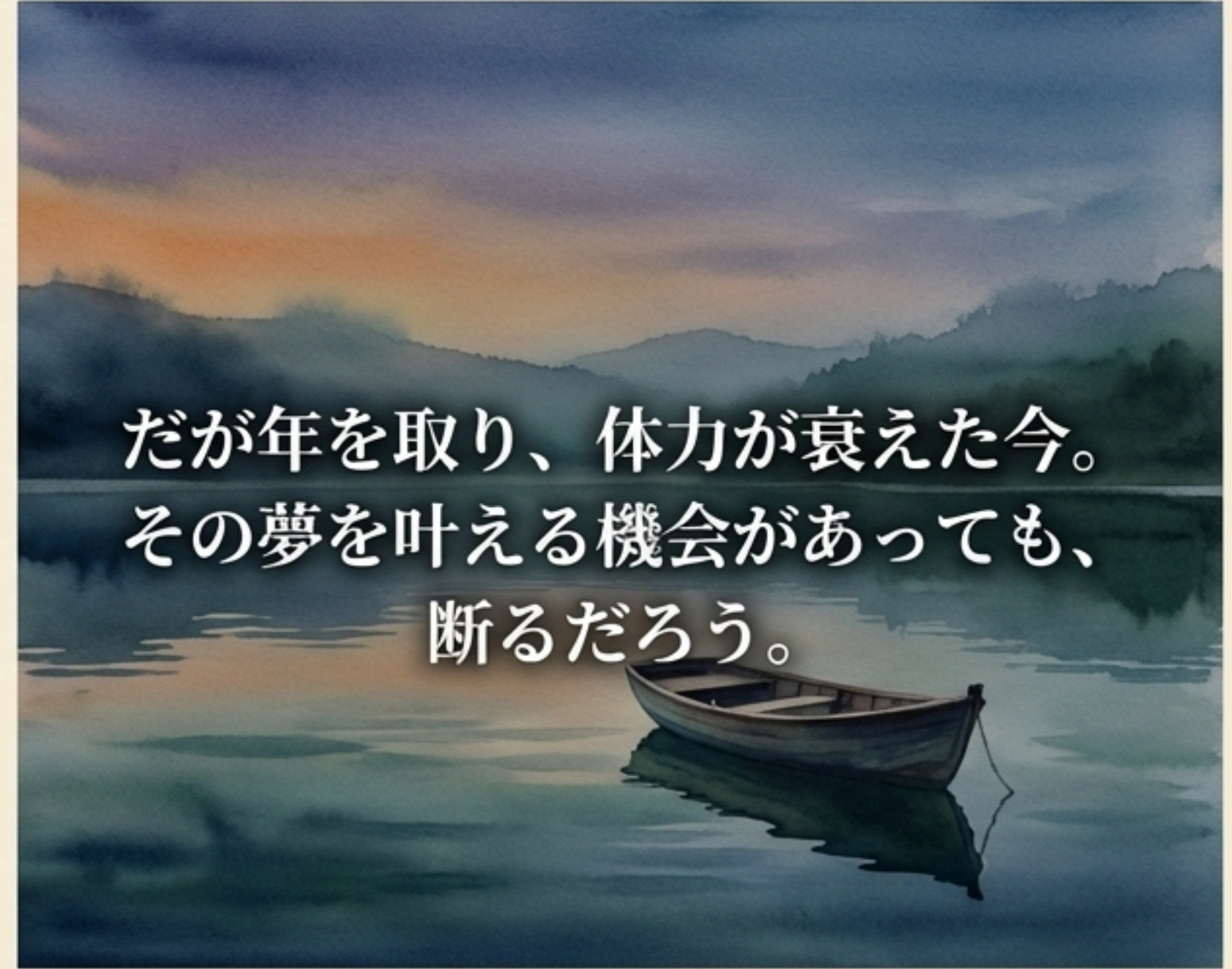
\$100k ~ : 複利の期間

元本が大きくなり、複利が自走し始める。



複利の恩恵を受けるには、最初の資本を作る「忍耐」が不可欠である。

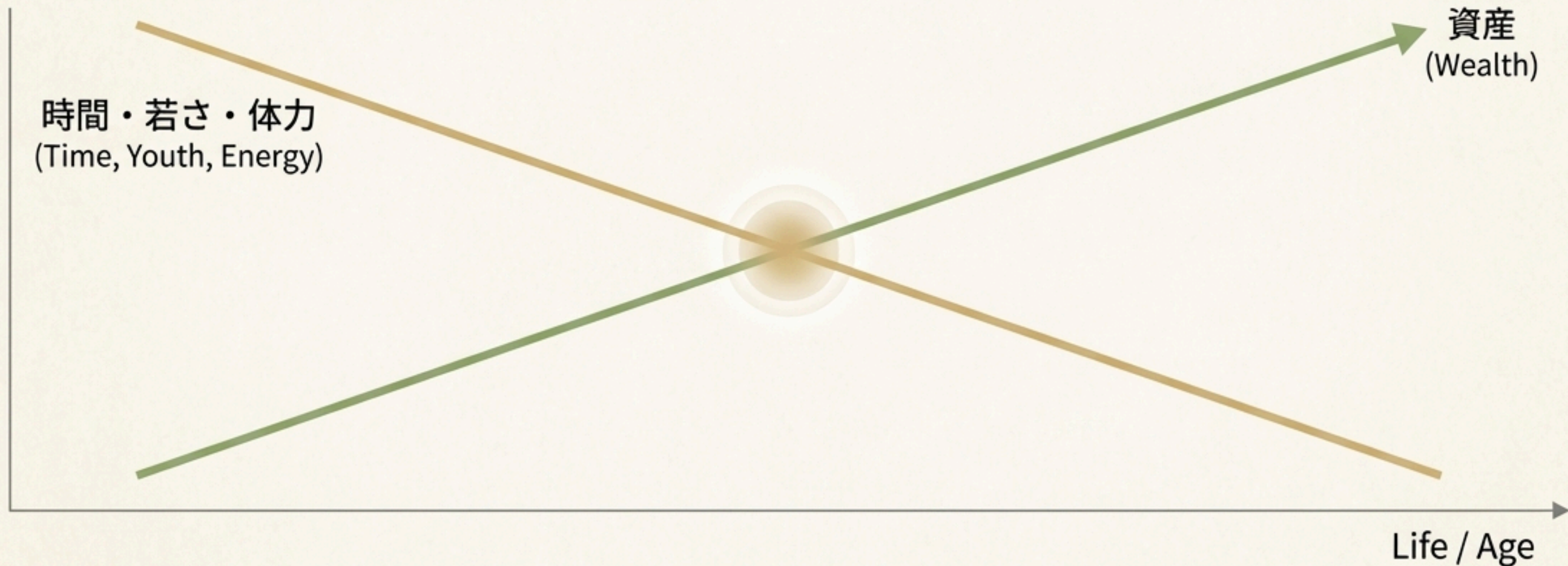
チャーリー・マンガーの「巨大なマグロ」



時間は戻らない。若さも戻らない。
どれだけ資産があっても、人生そのものは買えない。

あなたは何のために投資しているのか？

“お金を増やすことが目的なのか。
人生を豊かにすることが目的なのか。”

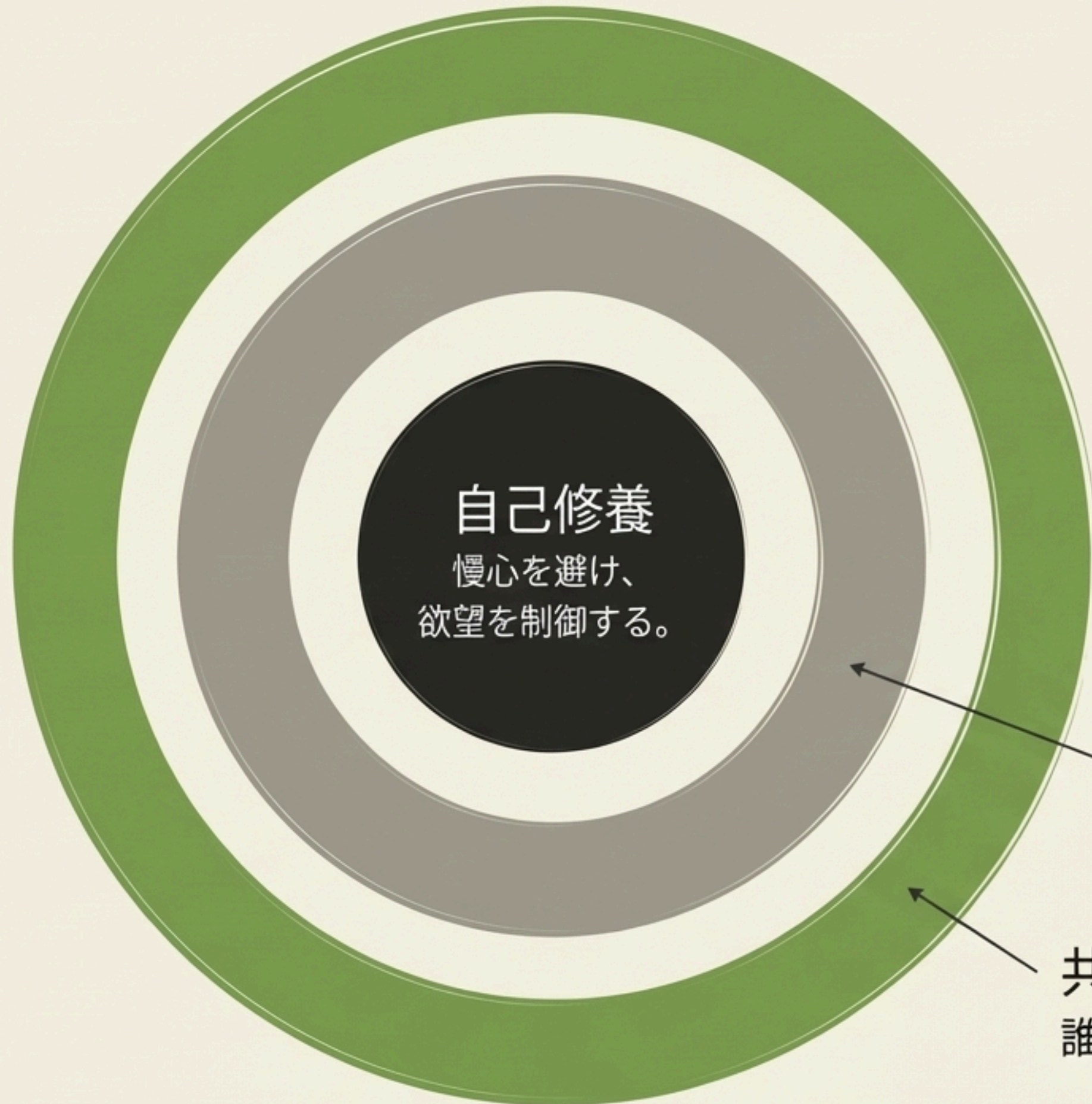


この問いを忘れると、人は「数字の奴隷」になる。人生は資産の数字ではない。

2つの投資哲学の比較

	一般的な投資家	道教的投資家 (Taoist)
究極の目標	資産を最大化すること	致命傷を避け、生き残ること
中心となる問い	「どうすれば勝てるか？」	「どうすれば破滅を避けられるか？」
行動の焦点	最適な銘柄と手法を探す	己の欲望を制御し、支出を抑える
市場の捉え方	利益を奪い合うカジノ	己の精神を鍛える道場
自己認識	慢心と群衆への追従	自分を客観視し、限界を知る

道 (Tao) としての投資



自己修養
慢心を避け、
欲望を制御する。

成功の道を探す前に、破滅の道避ける。
投資とは、ただの技術ではなく、平安と
安寧を往還するための学びである。

負けない理屈
本質を見抜き、破滅の道を塞ぐ。

共同体との調和
誰かのために生き、徳を磨き、共に歩む。



投資とは、人間を整える修行である。

未来を当てる技術ではない。
平安（心の調和）と安寧（持続する秩序）を往還すること。

徳を磨き、共同体と共に歩む。
それが、負けない投資家の境地である。